

第3章

教育実習プログラムの作成

教育実習を実施する際には、学校の実態を踏まえ、実習期間中に実施する講義やモデル授業、研究授業などを位置付けた、その学校の基本的な実習プログラムを予め作成しておくことにより、教育実習の実施内容が可視化でき、教職員の共通理解が深まり、全教職員で取り組む体制づくりにつながります。

1 教育実習を通して身に付けさせたい力と具体的な指導内容・指導場面

教育実習を通して実習生に身に付けさせたい力

教育実習プログラムの作成に当たっては、教育実習の意義・役割を踏まえ、教育実習を通して実習生に身に付けさせたい力を明確にしておく必要があります。

身に付けさせたい力としては、次のようなものが考えられます。

① 授業における指導力

- （授業前）教材研究、教具の準備、指導案作成
- （授業中）指導態度、指導技術
- （授業後）分析・批評する能力
- 授業観察の能力 等

② 児童生徒理解に関する能力

- 児童生徒を観察する能力、生徒指導等に関する指導力

③ コミュニケーション能力

- 場に応じた児童生徒への関わり方、教員との円滑な人間関係を築く能力

④ 教員としての自覚、態度等

- 教育者としての自覚に基づいた勤務態度
- 学校の教育活動全般や教員の業務についての理解

具体的な指導内容

以上の「身に付けさせたい力」の育成に向けた具体的な指導内容としては、次のようなものが考えられます。

- ①当該校の状況
- ②学校の組織
- ③学習指導
- ④生徒指導
- ⑤教育相談
- ⑥学級経営
- ⑦道徳教育
- ⑧人権教育
- ⑨学校保健
- ⑩特別支援教育
- ⑪総合的な学習の時間
- ⑫外国語活動（小）
- ⑬特別活動
- ⑭部活動（中高）
- ⑮学校安全
- ⑯教職員の服務

具体的な指導場面・指導形態

具体的な指導の場面や指導形態としては、次のような場面が考えられます。

◦[対面式、終了式]◦

対面式では、子どもたちとの出会いの感動や、実習生としての自覚を促します。また、終了式（お別れ会）では、実習を通して成長した自分自身を振り返ることができるよう助言します。対面式や終了式は、学校の規模等に応じて、全校単位や学級、学年単位で行われます。

特に、終了式は実習生にとって最も心に残る教育実習の一場面であり、同時に、児童生徒にとっても短期間とはいえ、実習生とのお別れは児童生徒の心の成長につながるものです。そうした視点を踏まえて、意図的に設定します。

◦ [講義] ◦

学校経営、生徒指導、道徳教育などの教育活動についての講義・講話を分掌主任などの各担当が行います。参考資料として講義で使用できる資料を添付していますので、参考にしてください。資料に示す基本的な考え方に加えて、当該実習校の取組や具体的な指導事例などを紹介することにより講義の内容がより深まります。



参考資料：「講義資料」<P101>

◦ [授業見学] ◦

指導担当教員（教科指導担当や学級担任）の授業の参観、実習生同士の授業の見学があります。実地授業の前に、授業見学を行って授業モデルとしたり、実習生同士の授業から互いの気付きを引き出したりします。P24に授業見学を指導する際のポイントを示しています。

◦ [実地授業] ◦

指導担当教員の指導助言を受けながら、実際の授業場面のみでなく、指導案の検討、教具の準備等、授業づくりを行います。実習生が複数いる場合は、指導案の共同立案やT T形式の授業を設定することも効果的です。P27以降に授業づくりを指導する際のポイントを示しています。なお、授業実施後は、必ず学習指導案の立案も含めた授業づくりの過程全体を通じた全体的な観点から振り返りを行います。

◦ [ミーティング] ◦

その日の授業の振り返りとともに、児童生徒の様子、指導案の検討と教具等の準備など、指導担当教員と様々な打合せを行います。一日の教育活動の具体的な場面に基に助言することにより、理解が深まります。小学校では、学級担任が指導担当教員として全般的に関わりますが、中学校や高校では、担任は主に学級活動や道徳、教科担当は、教科の指導にあたるなど、連携してミーティングを行う必要があります。

◦ [査定授業・授業研究会] ◦

教育実習期間中に学んだ成果を発揮する、実習の総括としての授業です。指導担当教員だけでなく、管理職や教科及び学年担当等の教員、さらには、他の実習生にも授業を参観し、査定授業後は、これらの教員等が参加して、幅広く授業に関する気付きや意見を述べ合う授業研究会を行います。P48以降に査定授業・授業研究会を実施する際の留意事項を示しています。

次に、以上の指導内容、指導時期と指導形態、担当者の例を一覧にして示します。

指導内容	指導時期と指導形態			担当者
	事前	前半	中・後半	
①当该校の状況	講義	講義		校長
②学校の組織		講義		教頭
③学習指導	講義	授業・観察	実地授業	研修主任、教科担任等
④生徒指導		講義	観察	生徒指導主任
⑤教育相談		講義	観察	教育相談担当
⑥学級経営		講義	観察	学年主任、学級担任等
⑦道徳教育			講義・実地授業	道徳教育担当 (道徳教育推進教師)
⑧人権教育		講義	観察	人権教育担当
⑨学校保健			講義・保健室見学	保健主任、養護教諭
⑩特別支援教育		講義	授業観察	特別支援教育担当
⑪総合的な学習の時間			授業観察・実地授業	担当
⑫外国語活動(小)			授業観察・実地授業	担当
⑬特別活動			授業観察	担当
⑭部活動(中高)			活動参加	部顧問
⑮学校安全			活動参加	主任
⑯教職員の服務	講義	講義		教頭

限られた教育実習の期間内で、例示した指導内容を全て実施する必要はありません。

「教育実習カルテ」等で把握した実習生の大学での履修状況や実習生自身の課題意識、さらには、実習校の校種や児童生徒の実態、教職員の構成等を踏まえ、指導内容の重点化を図る必要があります。

また、これらの講義を分掌主任が実施したり、逆に、実習生と年齢的にも近い若手教員が行ったりすることにより、実習校の教員の資質能力の向上につながることに考慮しながら、実習プログラムを作成する必要があります。

実地授業時間数

「教師は授業で勝負をする」と言われるように、学習指導(実地授業)は、教育実習の中で最も重点化すべき指導内容です。

実習期間中に実施する授業時間数については、大学から示される場合もありますが、授業における指導力は、実際に授業を行うことによって身に付くものです。

授業を多く実施すればするほど、その力は身に付くものと考えられますが、教育実習は限られた期間内に行うことから、あまりに多くの授業を詰め込みすぎても、消化不良を起こしてしまいます。また、児童生徒の反応を受け止め、授業に生かしていくなどの力についても経験を積むことによって付くと考えられますが、授業を構成する力などは、むしろ、一つの授業をじっくりと時間をかけて準備することにより身に付くものです。

授業を多く実施させる方が良いか、少なめにして、じっくりと準備させる方が良いかは、校種によっても異なりますし、実習生が有している力にもよります。

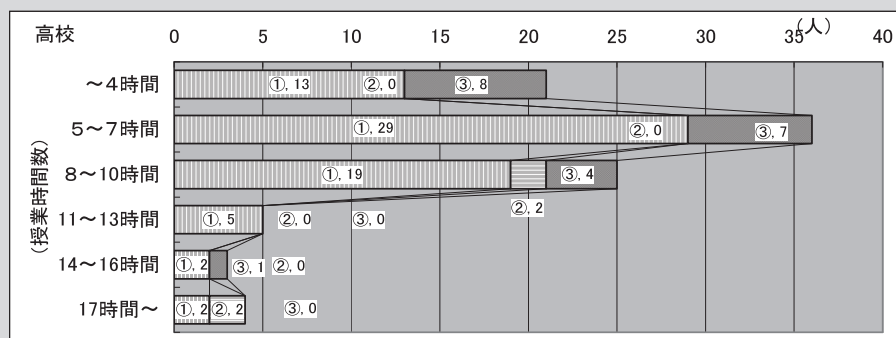
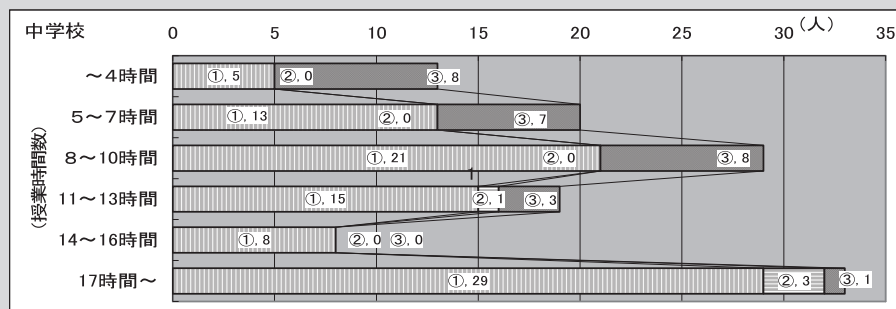
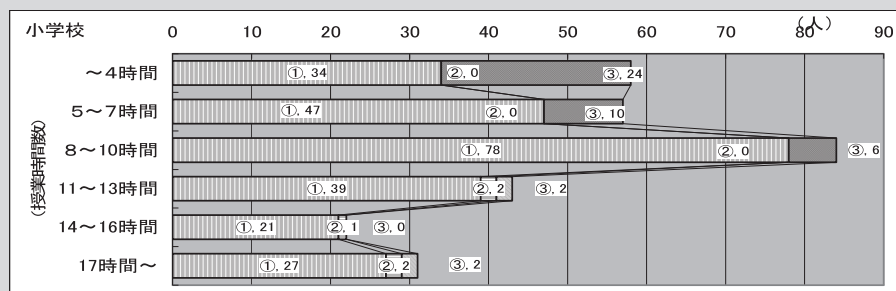
実際には、校種や学校の規模(学級数)、中学校や高等学校においては、指導担当教員の持ち時間により左右される場合が多く、本県の新規採用者を対象としたアンケートでも実施授業時間数は様々です。

本県の新規採用者を対象としたアンケートの結果は次のとおりです。



▼Data▼ データで見る教育実習

■ 教育実習の期間に実施した授業時間数と授業時間数についての感想



- ① 適当であったと思う。 ② 多かったと思う。
 ③ 少なかったと思う。 ④ その他

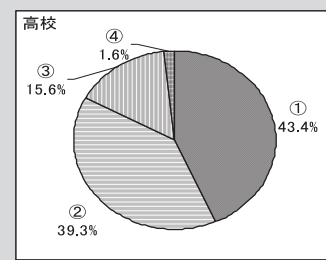
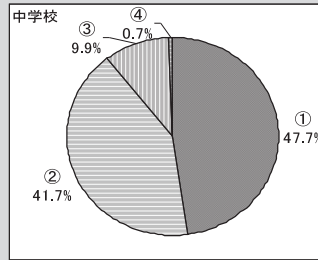
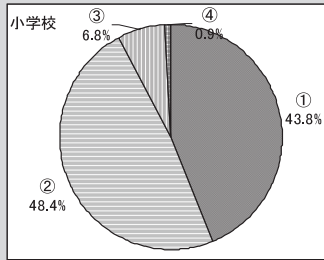
アンケート結果から、次のようなことがわかります。

- 小学校では、8～10時間の授業を行った者が最も多く、その多くはその時間数を適当であったと考えている。
- 中学校においても、8～10時間の授業を行った者は多いが、中学校は小学校と比べて、その時間数を少なかったと考える者が多い。これは、小学校が毎回異なる教科・内容の授業であるのに比べ、中学校は、同じ指導案で数クラス授業を行う場合もあることによるものと推測される。
- 高等学校では、5～7時間が最も多く、その授業の実施時数が適当であったと考えている者も多い。



▼Data▼ データで見る教育実習

■ 「教育実習により授業を実施する力がついたと思いますか。」



<感想別平均授業時数>

- ① そう思う
 ② どちらかといえばそう思う
 ③ どちらかといえばそう思わない
 ④ そう思わない

	小学校	中学校	高校
①	9.5時間	15.9時間	7.7時間
②	9.8時間	12.5時間	7.2時間
③	7.3時間	8.4時間	4.5時間
④	4.0時間		

また、上記のとおり、「教育実習により授業を実施する力がついたと思いますか。」という問いに対しては、多くの実習生が実習を通して、授業を実施する力が身に付いたと考えており、このうち、身に付いたと回答した者の授業時数の平均は、小学校は約10時間、中学校12～15時間、高校約7時間です。

2

実習プログラムの作成

実習プログラム作成の考え方

講義や実地授業に加えて、授業見学や査定授業、授業研究会、児童生徒との対面式や終了式など、実習全体を通して、学校・学級経営、教員の服務、児童生徒の理解や生徒指導、教科指導等、学校教育についての理解を様々な観点から深めることができるような場面を設定し、バランスよくプログラムを作成します。

プログラムの作成に当たっての留意事項は次の通りです。

- 実習の前半は、授業のイメージを醸成したり、学校教育全般についての理解を深めたりすることができるよう授業見学や講義をできるだけ多く設定する。
- 実習中盤では、授業づくりの実践を中心とし、実地授業を充実させる。
- 後半は、査定授業等の授業づくりのまとめや、集会活動など全校児童生徒とふれあう場を設定する。

教育実習プログラム（例）＜中学校＞


	AM						給食	清掃	PM			
	学活	1	2	3	4	5			6	学活		
第1日目	見学	対面式	講義 本校の教育	講義 教育実習	講義 教職員の服務			授業見学	講義 授業の作り方	見学	ミーティング	
第2日目	見学	授業見学	講義 学級経営	教材研究	授業見学			教材研究	学年集会 スピーチ	見学	ミーティング	
第3日目	見学	教材研究	教材研究	実地授業 ① 2-1	教材研究			実地授業 2-1	講義 生徒指導	見学	ミーティング	
第4日目	見学	実地授業 ① 2-3	教材研究	教材研究	実地授業 ② 2-1			学活 見学	講義 学校保健	見学	ミーティング	
第5日目	見学	実地授業 ② 2-2	教材研究	教材研究	実地授業 ② 2-3			教材研究	講義 道徳教育	見学	ミーティング	
第6日目	指導	教材研究	教材研究	実地授業 ③ 2-2	教材研究			実地授業 ③ 2-3	教材研究	指導	ミーティング	
第7日目	指導	実地授業 ③ 2-1	教材研究	教材研究	若手教員との懇談			教材研究	講義 教育相談	指導	ミーティング	
第8日目	指導	教材研究	教材研究	教材研究	実地授業 ④ 2-2			学活 補助		指導	ミーティング	
第9日目	指導	実地授業 ④ 2-3	教材研究	査定授業 見学	査定授業 ④ 2-1			教材研究	授業研究会	指導	ミーティング	
第10日目	指導	教材研究	教材研究	教材研究	教材研究			実地授業 ⑤ 2-1	終了式	指導		

□網掛けは、学校指定プログラム（講義 1 2時間 懇談 1時間）

□実施授業時数 3クラスにおいて計 1 3時間（査定授業を含む）

1日の実習の流れ

例《小学校》

AM	登校	その日の職員朝礼の連絡事項の伝え方や、教師から子どもたちへの朝の話の内容等を確認します。
	実習生控え室の清掃	
	教育実習担当教員による出席の確認	
	指導担当教員との打ち合わせ	
	職員朝礼参加	
	学活指導（朝）	
授業見学・実地授業・講義 教材研究など		
PM	・担当教諭や他の実習生の授業見学 ・実習生の授業	
	給食	
	清掃	
	授業見学・実地授業・講義 教材研究など	
	・担当教諭や他の実習生の授業見学 ・実習生の授業	
	学活指導（帰り）	
ミーティング	学級経営の視点も踏まえて、実習生と子どもたちの様子を、同時によく見るようにします。	
・教材研究・振り返り ・行事の打合わせ等		

教育実習日誌を実習生に手渡し前日の活動について助言をします。
また、授業見学・実地授業等の一日の予定を打ち合わせます。

授業見学中でも、学級担任であるという意識で臨むよう助言します。



学級経営の視点も踏まえて、実習生と子どもたちの様子を、同時によく見るようにします。

<中学校・高等学校における部活動指導への参加について>

部活動は生徒の個性を伸ばし、心身を鍛えたり、人間性を豊かにする上でも非常に大切な活動です。実習期間中に参加してみることもよい経験になります。

また、子どもたちの能力・資質を新たに発見したり、コミュニケーションのきっかけにもなったりします。

ただし、教育実習中は、教科指導・学級指導が最優先です。指導担当教員にも相談しながら、あくまでも、できる範囲で参加してみましよう。



Level Up! 初任者研修では……

- 教育実習のプログラム作成に当たっては、初任者研修の内容が参考となることから参考資料に初任者研修の内容を示しています。
- また、やまぐち総合教育支援サイトに本県の「初任者研修の手引」を掲載しています。



参考資料：初任者研修の概要<P80>